

高等学校保健体育科におけるジェンダーイコリティ実現状況： 女子体育大生と一般女子大生の比較調査

On the Realization of Gender Equality in Health and Physical Education in Japanese High Schools: a Comparative Study

キーワード：男女共修体育，保健体育科教員数，女子体育教師

Keywords: Coeducation Learning in Physical Education, The Number of the Health and Physical Education Teachers, Women's PE Teacher

掛水 通子

KAKEMIZU Michiko

はじめに

昨年度(2015《平成27》年度)，本学女子体育研究所では、「本学新入生の高校時代における保健体育授業や部活動等の実態調査」を実施した。この調査は高校時代の保健体育授業や部活動等の実態を思い出してもらう方法での質問紙法による集合調査であった。保健体育科ジェンダーイコリティ達成度，体育実技の授業，体育理論の授業，保健の授業，課外活動，課外活動における体罰の6視点からの調査で，東京女子体育大学女子体育研究所報第10号に，全体概要(掛水ほか，2016)と視点別(掛水，2016；長谷川・及川，2016；笹生・中村，2016；戸田・鶴澤，2016；小野田・八尾；2016)に報告した。

これらの調査結果はそれぞれのパートで，当初の仮説通りの場合や仮説が覆された場合があった。調査結果は女子体育大新入生(以後，女子体育大生と略すことがある)本人や出身校特有のものであるかどうかを検証するため，本年度(2016年度)は一般女子大学新入生(以後，一般女子大生と略すことがある)に対して，昨年度と同様の調査を実施し比較検討することにした。

一般女子大学として，一部(昼間部)は一学部から成り，本学よりやや多い学生を擁するA女子大学A学部(3学科構成)を選定し調査した。A女子大学の調査は，本学研究倫理規範に則り本学研究倫理委員会に倫理審査を依頼し，2016(平成28)年4月20日に承認された後，A女子大学の承認を得て行われた。A女子大学での調査は，本調査の「体育実技の授業」担当の長谷川とA女子大学教員が行った。A女子大学新入生には，任意の調査であること，答えたくない質問には答えなくてよいこと，調査結果は統計的に処理されるので個人が特定されないことを確認して調査を実施した。

昨年度と本年度調査人数および調査日は以下の通りであった。

昨年度(2015年度)調査

調査人数：女子体育大生374人

(1年生在籍数386人の96.9%，回収率100%)

調査日：2015(平成27)年7月

本年度(2016年度)調査

調査人数：A女子大学生420人

(1年生のうち426人中，回収率98.6%)

調査日：2016(平成28)年6月から7月

本稿はジェンダーイコシティ達成度(男女共修授業, 保健体育科男女教員数等)の視点から報告する。

本研究の目的は, 高等学校保健体育科においてジェンダーイコシティは達成しているのかどうかを, 昨年度(2015年度)実施した女子体育大生に対する調査結果と本年度(2016年度)実施した一般女子大生の調査結果を比較検討しながら明らかにすることである。

1. 共学高校での男女共修保健体育授業の実態

(1) 男女共修授業実施状況

体育科における「男女共修」は, 1989(平成元)年の文部省学習指導要領で体育の内容が男女同一となり, 選択制が取り入れられたことに付随して始まった。多くの種目から選択する場合, 教員数と生徒数の関係から男女共修にした方が選択の範囲が広がるからである。男子がダンスを選択できるようになり, 女子も武道を選択できるようになったことから, 中学校や高等学校でのダンスや武道での男女共修の実践報告や研究が見られるようになった(掛水, 2006)。

女子高校出身者は女子体育大生の18.3%(67人), 一般女子大生の20.8%(86人)あり, それを除いて共学高校出身者のみに, 男女共修授業の実施状況を尋ねた。共学高校出身者のうち, 女子体育大生では13.4%(41人)が「全部共修」, 66.3%(203人)が「一部共修」, 20.3%(62人)が「共修していない」と答え, 79.7%(244人)が一部でも共修している。一般女子大生では19.3%(65人)が「全部共修」, 63.5%(214人)が「一部共修」, 17.2%(58人)が「共修していない」と答え, 82.8%(244人)が一部でも共修している。

一般女子大生の共修率の方がやや高い結果となった。1年間の違いが共修の実施度を高めたのではないかと推察される。

女子体育大生では女子高校出身者67人と「共修していない」の合計129人(34.5%), 一般女子大生では女子高校出身者86人と「共修していない」の合計144人(34.3%)が女子だけの体育授業であった。ほぼ同数でおよそ三分の一の学生に当たる。2005(平成17)年に実施した関東地方の共学高校に対する調査結果(掛水, 2006)では「全部共修」が19.1%(17校), 「一部共修」が42.7%(38校), 「していない」が38.2%(34校)であった。61.8%(55校)が全部あるいは一部男女共修の体育を実施していた。38.2%(34校)の高等学校が男女別修体育であった。調査対象高校の違いはあるが, 10年間で「共修していない」は38.2%から20.3%あるいは17.2%と, およそ半減した。

このように, 男女共修体育は進んでいるが「全部共修」ではなく, 「一部共修」の形を取ることににより実施されていることが確認できた。

(2) 一部男女共修の場合の実施内容

一部男女共修授業であったとの回答者に対して, 共修内容を尋ねた結果が図1である。女子体育大生一般女子大生ともに保健と球技の実施率が高い。女子体育大生では, 最多が保健177人(87.2%)で, 次いでバレーボール85人(41.9%), バスケットボール82人(40.4%), 陸上競技67人(33.0%), バドミントン60人(29.6%)などと続く。一般女子大生は保健212人(76.8%), バレーボール83人(30.1%), 体づくり運動80人(29.0%), バスケットボール77人(27.7%), バドミントン73人(26.4%)と続く。

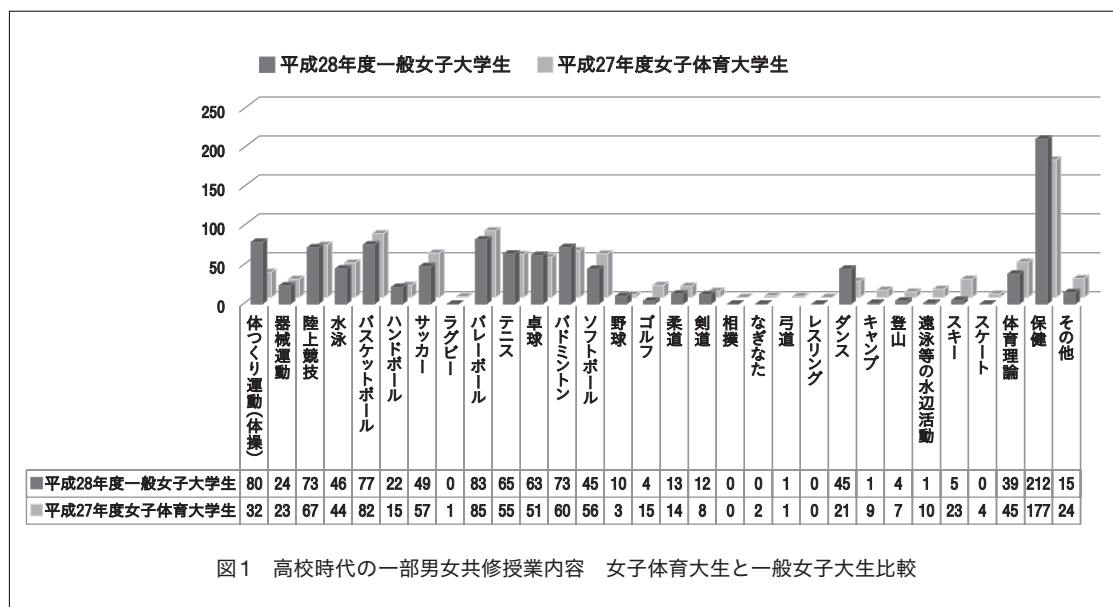
女子体育大生と一般女子大生との違いは, 一般女子大生が体づくり運動, 野球, ダンス, 女子体育大

表1 共学高校の保健体育授業の共修率

	平成27年度女子体育大生				平成28年度一般女子大生			
	全部共修	一部共修	共修なし	合計	全部共修	一部共修	共修なし	合計
人数	41	203	62	306	65	214	58	337
割合	13.4%	66.3%	20.3%	100%	19.3%	63.5%	17.2%	100%

注)女子高校出身者は67人(18.3%)であった。

注)女子高校出身者は86人(20.8%)であった。



生がゴルフ、水辺活動、スキー、スケートの実施率が高い点である。女子体育大生は専門学科体育科等の出身が含まれるため多様な内容を実施している。

昨年度女子体育大生の調査では、ダンスの一部実施率が10.3%(21人)であったが、1年の違いで一般女子大生は16.3%(45人)になっている。一般女子大生は全部男女共修の65人と合わせて、110人(全体の26.2%)の男子生徒もダンスを実施していることになる。2005(平成17)年に実施した関東地方の共学高校への調査結果(掛水, 2006)では、一部男女共修を実施している高等学校は球技が78.9%で最も多く、次いで陸上競技44.7%、体づくり運動36.8%、器械運動、武道各18.4%、水泳13.2%で、ダンスが最も少ない7.9%であった。昨年度の女子体育大生の調査では10年前と大きな変化はなかったが、本年度の一般女子大生への調査では、ダンスの共修が進んでいる。ダンスはかつて、女生徒のみに課されていたが、ジェンダーイコールが進んでいるとみることができよう。

(3) 男女共修授業で感じたこと

男女共修授業で感じたことを自由記述で回答を求

めたところ、女子体育大生で103(27.5%)、一般女子大生で99(23.6%)の記述があった。それらを肯定的意見と否定的意見に分類整理したのが表2である。男女共修授業で、様々な感じ方をしていることがわかる。

女子体育大生の59.2%、一般女子大生の41.4%が肯定的意見を書いている。「楽しい」に関係した記述が多く、男女共修授業により「楽しい体育」となっていることがわかる。その他では、男子と一緒に授業することにより「レベルが高い体育できる」、「男子は技術がありプラスとなった」、「男子の動きを参考」などの意見を体育が得意であったと思われる女子体育大生が書いている。肯定的意見と否定的意見の割合は女子体育大生では2対1の割合であったが、一般女子大生は、ほぼ同数となっている。

否定的意見では、女子体育大生、一般女子大生ともに運動能力、体力、技術、力、力量の違いを挙げている。「水泳は別がいい」、「保健は別がいい」と書き、「男子がいるとはずかし時もある」などの意見もあった。

男女共修授業は女子体育大生つまり、体育の得意な生徒の方が肯定的であることが明らかとなった。

表2 男女共修授業で感じたこと

2015年 女子体育大生			2016年 一般女子大生				
	自由記述回答(一部要約)	数	合計		自由記述回答(一部要約)	数	合計
肯定的意見	楽しい	35	61 59.2%	肯定的意見	楽しいなど	24	41 41.4%
	盛り上がった	1			盛り上がったなど	5	
	男女先生楽しい	1			バド、卓球は上手な男子と試合ができて楽しかった	1	
	賑やか	2			陸上競技は男子が速いので、自然と女子も走りが向上した	1	
	レベルが高い体育できる	2			プールで男女で教え合ったときはびっくりした	1	
	女子だけでなくゲームが成り立たないから良かった	1			力の差があると思った。自分が得意なものは男子とやってみたくと思うことはあった	1	
	体育も共修がいい	1			男子との力の差を感じたが楽しかった。(体育)保健は男子の意見も聞けて良かった	1	
	男子の方が活発で体力ある	1			共修だったけど、チームなどはわけてくれてそれがあたりまえだと思っていた	1	
	男子の方が記録が良い	1			特に嫌だと思わなかったし、一緒に取り組むことでクラスの仲も深まった	1	
	良い	1			男子の女子に対する思いやりの心が見えた	1	
	女性の先生がいていい	1			良いと思う	1	
	女性への配慮あった	1			ちゃんとした授業だった	1	
	男女で負荷が違いやりやすかった	1			男女共修で良い内容だった	1	
	男女向き動きがわかった	1			やさしく教えてくれた	1	
	男女差がない種目が共修	1		その他	1		
	なぜソフトボールは男子のみ	1		男女共修であるがチームなどは男子と女子で分かれていた	1		
	それぞれの厳しさがあって頑張れた	1		説明の仕方がざつ	1		
	意見聞ける	1		特になし など	11		
	教えてくれた	1					
	教えてもらえる	1					
	高い知識が身につく	1					
	刺激になった	1					
	男子の動き参考	1					
男子は技術ありプラスとなった	1						
力の差なし	1						
特になし	11	11 10.7%					
否定的意見	運動神経の差	1	31 30.1%	否定的意見	力の差・体力差	9	44 44.4%
	運動能力の差	1			運動能力の差	2	
	技術力の差	1			男子の力はすごい	1	
	体力差	1			男子のボールは怖い、でもちょっと遠慮してる感はある	1	
	不得手なひとは厳しい	1			ついていけなかった	1	
	力の差	7			女子が手加減されていた	1	
	力量の違い	1			男子と勝負したかったのにできなくて残念だった	1	
	水泳は別がいい	5			男子の体育は楽しそう	1	
	保健は別がいい	2			水泳の授業は別がいい	8	
	受けにくかった	1			保健と水泳は男女別がよかった	1	
	少しやりづらい	1			保健の授業は別がいい 質問しづらいなど	4	
	ボールとか飛んできたりして危ない	1			性の話になると下ネタで騒ぎだして不快だった	1	
	笑っている人もいてあまり良い環境ではなかった	1			男子は保健の授業はほとんど寝ていた	1	
	気まずい	1			みんな寝ていた	1	
	男女での意見合わせが難しい	1			やりづらいと思った	1	
	行動が遅くなる	1			少し気まづくなる時があった	1	
	同じで嫌な授業などもあったので、少しは分かれてやりたかったです	1			反応に困りました	2	
	先生が教えずらそうでした	1			運動する姿をみられるのは少しいやだった	1	
	女子が少なかったので、別にしてほしかった	1			あまり楽しくない	1	
	男子がいると、はずかしい時もある	1			女性がいてくれたらいいなと思った	1	
総計	103	103		総計	99	99	

(4) 男女共修授業での保健体育科教員の性別

図2に男女共修授業での保健体育科教員の性別を示した。女子体育大生では77.3% (187人) が男女両方, 20.7% (50人) が男性教員のみ, 2.1% (5人) が女性教員のみ, 一般女子大生では71.6% (197人) が男女両方, 26.9% (74人) が男性教員のみ, 1.5% (4人) が女性教員のみと答えている。女子体育大生の出身高校の方が, 男女両方の教員が男女両方の生徒を教えるという形に近付いている。しかし, 男女共修授業は男性教員のみによる高校が多く残されている。かつての保健体育科は, 男性教員は男女生徒を教え, 女性教員は女子生徒のみを教えるという形であったので, その名残であると言える。また, 次項に述べるように男性教員が皆無の高校はごく希であるが, 女性教員が皆無の高校は女子体育大生で5.8%, 一般女子大生では11.0%もあり, それらの高校では全授業が男性教員によることになることに起因している。

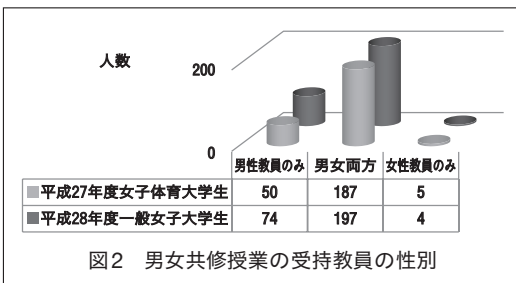


図2 男女共修授業の受持教員の性別

2. 保健体育科男女教員数

(1) 保健体育科男女教員数

図3-1は女子体育大生, 図3-2は一般女子大生の出身高校1校当たりの保健体育科男女教員数を示したものである。「わからない」と答えたものや回答なしは除いた。女子体育大生, 一般女子大生ともに保健体育科教員数は男性教員4名, 女性教員1名在籍の場合が最も多かった。女性教員は全くいなかったとの回答は女子体育大生21名 (5.8%), 一般女子大生45名 (11.0%) であった。女子体育大生の高校には, 数は少ないものの一般女子大生の高校よりも女性教員が多く在籍していたことが明らかになった。これらの女性体育教員が女子生徒のロールモデルとなり, 体育大学入学に影響を及ぼしたと考えられる。

ともに, 女性教員数は1校1人の配置が最多で, 女子体育大生で31.9% (115), 一般女子大生で39.8% (122) を占め, 2人, 3人, 4人配置は次第に少なくなっていく。それに対して男性教員は1校4人配置が最多で, 正規分布に近い分布を示し, 男女で全く異なる分布を示している。男性教員は皆無であったと答えたのは女子体育大生で2人, 一般女子大生で3人のみであった。

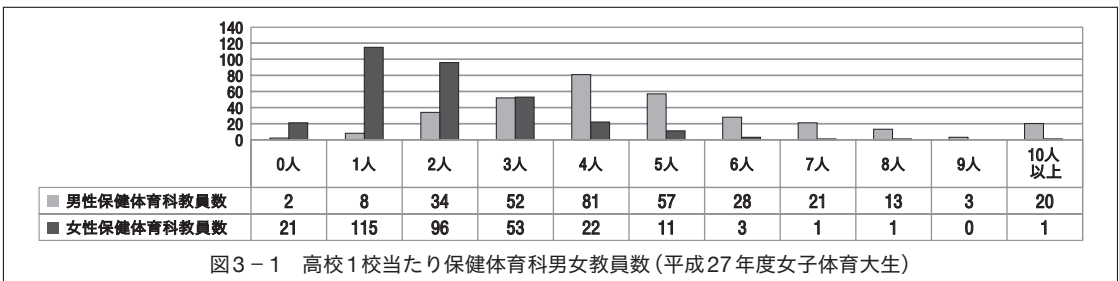


図3-1 高校1校当たり保健体育科男女教員数 (平成27年度女子体育大生)

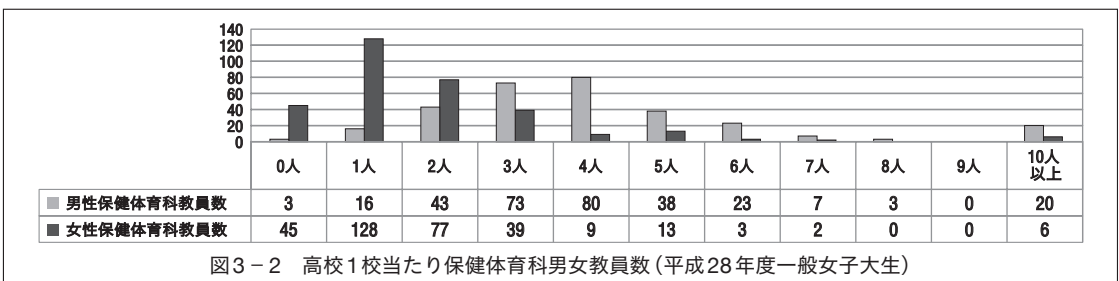


図3-2 高校1校当たり保健体育科男女教員数 (平成28年度一般女子大生)

(2) 共学，女子高校別保健体育科男女教員数

図4-1は女子体育大生，4-2は一般女子大生の共学，女子高校別保健体育科男女教員数を示したものである。双方とも，女子高校の保健体育科男女教員はほぼ同様の分布となっている。一方，共学高校では，女性教員は1校1人の配置が最多で次いで1校2人の配置，男性は1校4人の配置が最多という全く異なる分布を見せている。

共学高校の女性教員の数には女子体育大生と一般女子大生に違いが見られ，女性教員皆無は女子体育大生19人，一般女子大生43人，女性教員2人は女子体育大生79人，一般女子大生53人で，女子体育大生の高校の方が一般女子大生の高校より多い女性教員が配置されていた。

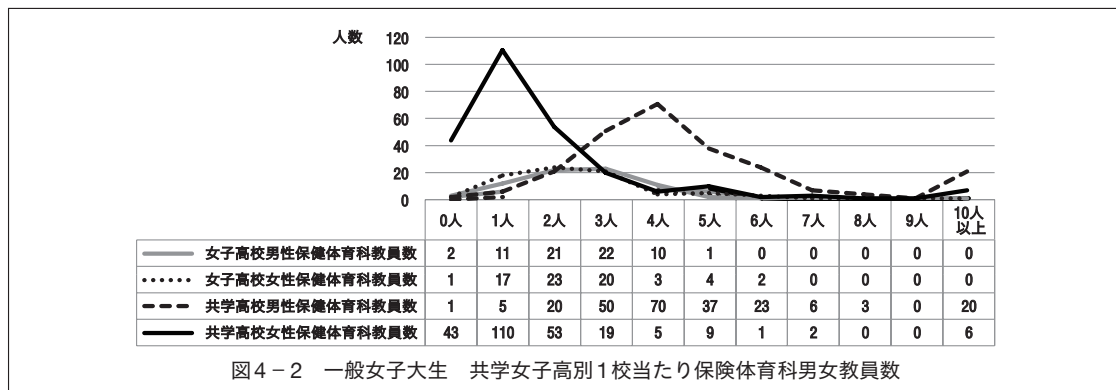
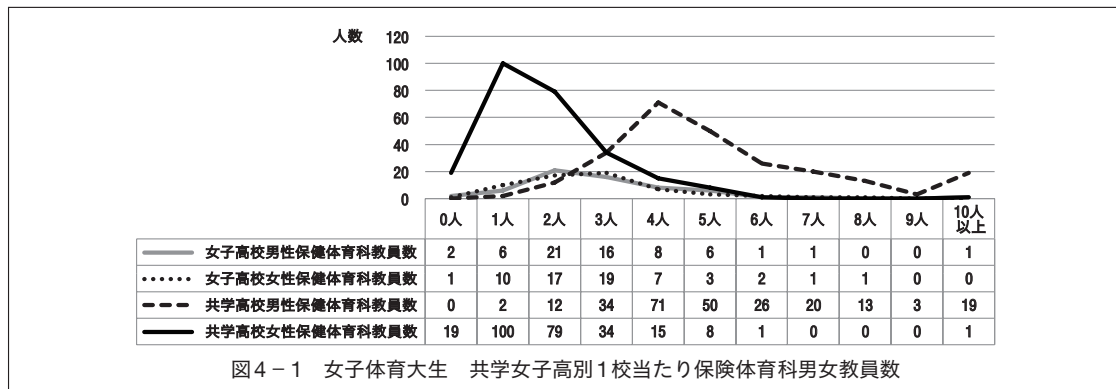
女子高校の保健体育科男女教員数の配置は，女子体育大生と一般女子大生ともに，女子生徒のみであった戦前の高等女学校と変わらない状況である。共学高校の保健体育科男女教員の分布が，女子高

校の保健体育科男女教員の分布のようになったとき，ジェンダーイコシティが達成されたと言えるであろう。

(3) 保健体育科男女教員数の関係

保健体育科教員数は学校規模に左右される。生徒数の多い高校では当然その数が多くなるので，一つの高校での保健体育科男女教員数の関係を検討しなければならない。高校3年生の時を思い出してもらったが，女子体育大生は「男女教員ともにわからない」との回答は9.1% (33人)であったのに対して，一般女子大生は18.7% (76人)と倍以上になっている。女子体育大生は保健体育科教員に関心があつたことがわかる。

表3-1から表3-3は女子体育大生，表3-4から表3-6は一般女子大生の出身高校について全体，男女生徒数ほぼ同数の共学高校(男子生徒数の方が多い共学高校と女子生徒数の方が多い共学高校



の例は示さなかった), 女子高校に分けて保健体育科男女教員数の関係について検討した. それぞれ回答不備者の回答を除いて分析した. それぞれの人数の上位3位までを太字に, 最大値を太字斜体にした.

全体を概観すると女子教員の少なさが見てとれる. 男女生徒数ほぼ同数の共学高校では, 男性教員皆無は一般女子大生に1人のみであるのに, 女性教員皆無は女子体育大生で8人, 一般女子大生で30人も

あり, それぞれ女子高校にも女子教員皆無がある. 前項でも述べたが, 男子教員数も女子教員数も一般女子大生の高校より女子体育大生の高校の方が多い. 女子体育大生の高校には体育科やスポーツ科が含まれるためである.

全体を見ると, 女子体育大生では最も多い保健体育科男女教員配置組み合わせは二つあり, 男性教員5人と女性教員1人, 男性教員4人と女性教員2人

表3-1 平成27年度女子体育大生
1高校での男女保健体育科教員数の関係(全体)

	男性教員											横 合計		
	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上		わ から ない	
女性教員	0人			1	3	3	2	2	3	5		1	1	21
	1人					27	30	10	8	2	1	3	7	115
	2人	1	4	11	14	30	13	10	5			3	5	96
	3人	1	1	11	10	13	5	4	1	3		1	3	53
	4人					6	4	5		1	1	1	3	22
	5人					2	1	2		1	1		4	11
	6人	1			1					1				3
	7人							1						1
	8人								1					1
	9人													0
	10人以上											1		1
わからない											3	33	37	
総合計	2	8	34	51	78	57	27	20	13	2	19	50	361	

表3-4 平成28年度一般女子大生
1高校での男女保健体育科教員数の関係(全体)

	男性教員											横 合計		
	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上		わ から ない	
女性教員	0人	2	1	1	9	10	4	7	5	2		1	3	45
	1人		5	12	25	37	18	12	1			1	16	127
	2人		3	15	24	19	8	2		1			5	77
	3人		5	12	12	5	2	1				1	1	39
	4人				2	1	3		1					9
	5人	1	1			1	1	3					3	13
	6人	1	1				1	1						3
	7人											2		2
	8人													0
	9人													0
	10人以上											6		6
わからない				1	1		1				6	76	85	
総合計	3	16	43	73	76	37	22	7	3	0	20	106	406	

表3-2 平成27年度女子体育大生
1高校での保健体育科男女教員数の関係(男女ほぼ同数の共学高校)

	男性教員											横 合計		
	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上		わ から ない	
女性教員	0人			1	2			1	3				1	8
	1人		1	1	7	13	13	4	3			2	4	48
	2人		1	1	6	17	6	6	2				4	43
	3人					3	2	2				1	3	11
	4人					2	2					1		5
	5人				1	1			1	1		1		5
	6人													0
	7人													0
	8人													0
	わからない				1							1	13	15
	総合計	0	2	4	14	38	23	12	7	4	0	6	25	135

表3-5 平成28年度一般女子大生
1高校での保健体育科男女教員数の関係(男女ほぼ同数の共学高校)

	男性教員											横 合計		
	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上		わ から ない	
女性教員	0人	1		1	7	8	2	3	4	2			2	30
	1人		1		8	16	23	11	6				7	72
	2人		1	3	9	8	5	2					3	31
	3人			2	3	1						1		7
	4人												2	2
	5人						1	2					3	7
	6人							1						1
	7人											2		2
	8人											4		4
	わからない				1			1				6	41	49
	総合計	1	2	15	35	47	22	11	4	2	0	16	56	205

表3-3 平成27年度女子体育大生
1高校での保健体育科男女教員数の関係(女子高校)

	男性教員											横 合計		
	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上		わ から ない	
女性教員	0人				2									1
	1人		1	3	2	1	3							10
	2人	1	3	8	3	2								17
	3人	1	1	10	3	3	1							19
	4人				5	1	1							7
	5人				1	1						1		3
	6人		1											2
	7人							1						2
	8人								1					1
	わからない												5	5
	総合計	2	6	21	16	7	6	1	1	0	0	1	5	66

表3-6 平成28年度一般女子大生
1高校での保健体育科男女教員数の関係(女子高校)

	男性教員											横 合計		
	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上		わ から ない	
女性教員	0人		1											1
	1人		2	3	5	4	1						1	16
	2人		2	8	8	4							1	23
	3人		5	9	6									20
	4人				1	1								3
	5人	1	1		1	1							1	4
	6人		1				1							2
	7人													0
	8人													0
	わからない					1							11	12
	総合計	2	11	21	22	10	1	0	0	0	0	0	14	81

注) 回答不備(全体13人, 男女同数共学4人, 女子高校1人)を除いた. それぞれ上位3位までを太字にした.

注) 回答不備(全体14人, 男女同数共学5人, 女子高校5人)を除いた. それぞれ上位3位までを太字にした.

の組み合わせであるのに対して、一般女子大生では、男性4人と女性1人の組み合わせであった。

男女生徒数ほぼ同数の共学高校を見ると、女子体育大生では最も多い保健体育科男女教員配置組み合わせは、男性教員4人と女性教員2人、一般女子大生では男性教員4人と女性教員1人の組み合わせであった。

女子高校を見ると、女子体育大生、一般女子大生ともに、最多は男性教員2人と女性教員3人の組み合わせであり、女子高校では共学高校より女性教員が多く配置されている。

3. 体育実技担当教員の性別

体育実技の内容別担当教員の性別を尋ねた。及川らが本所報の体育実技の視点での報告で述べるように、体育実技の履修状況に内容によって大きな差

がある。表4の「授業なし」の項は学習指導要領の内容であるにも拘わらず、授業をしていない。女子体育大生と一般女子大生の顕著な違いは、体づくり運動の授業であり、女子体育大生の61.0%が授業を受けていなかったが、一般女子大生ではそれが16.8%に減少している。

女子体育大生で、半数以上が高校時代に授業を受けていなかったのは、武道(73.8%)、体づくり運動(61.0%)、水泳(57.7%)で、器械運動(44.9%)は半数近くが、ダンスはおよそ四分の一(26.2%)が授業を受けていない。一般女子大生では、体づくり運動以外は、高校時代に授業を受けていなかった順は女子体育大生と同様で、武道(73.4%)、水泳(52.5%)、器械運動(39.1%)、ダンス(22.9%)であった。

図5-1、5-2は授業があったという回答者の実技担当者の性別を示した。双方とも球技、陸上競技、水泳、体づくり運動は男女両方の担当が多かった。ダ

表4 高校時代の体育実技担当教員の性別

平成27年度女子体育大生(数)					平成28年度一般女子大生(数)				
	男性教員のみ	男女両方	女性教員のみ	授業なし		男性教員のみ	男女両方	女性教員のみ	授業なし
体づくり運動(体操)	39	67	37	224	体づくり運動(体操)	96	192	54	69
器械運動	67	62	76	163	器械運動	97	99	53	160
陸上競技	100	155	53	60	陸上競技	133	182	42	56
水泳	39	82	34	211	水泳	66	102	28	217
球技	90	231	45	5	球技	116	257	36	7
武道	59	26	11	270	武道	72	21	16	301
ダンス	23	44	206	97	ダンス	36	60	223	95

平成27年度女子体育大生(割合)					平成28年度一般女子大生(割合)				
	男性教員のみ	男女両方	女性教員のみ	授業なし		男性教員のみ	男女両方	女性教員のみ	授業なし
体づくり運動(体操)	10.6%	18.3%	10.1%	61.0%	体づくり運動(体操)	23.4%	46.7%	13.1%	16.8%
器械運動	18.2%	16.8%	20.7%	44.3%	器械運動	23.7%	24.2%	13.0%	39.1%
陸上競技	27.2%	42.1%	14.4%	16.3%	陸上競技	32.2%	44.1%	10.2%	13.6%
水泳	10.7%	22.4%	9.3%	57.7%	水泳	16.0%	24.7%	6.8%	52.5%
球技	24.3%	62.3%	12.1%	1.3%	球技	27.9%	61.8%	8.6%	1.7%
武道	16.1%	7.1%	3.0%	73.8%	武道	17.6%	5.1%	3.9%	73.4%
ダンス	6.2%	11.9%	55.7%	26.2%	ダンス	8.7%	14.5%	53.9%	22.9%

平成27年度女子体育大生(授業ありのなかでの割合)					平成28年度一般女子大生(授業ありのなかでの割合)				
	男性教員のみ	男女両方	女性教員のみ	合計		男性教員のみ	男女両方	女性教員のみ	合計
体づくり運動(体操)	27.3%	46.9%	25.9%	100%	体づくり運動(体操)	28.1%	56.1%	15.8%	100%
器械運動	32.7%	30.2%	37.1%	100%	器械運動	39.0%	39.8%	21.3%	100%
陸上競技	32.5%	50.3%	17.2%	100%	陸上競技	37.3%	51.0%	11.8%	100%
水泳	25.2%	52.9%	21.9%	100%	水泳	33.7%	52.0%	14.3%	100%
球技	24.6%	63.1%	12.3%	100%	球技	28.4%	62.8%	8.8%	100%
武道	61.5%	27.1%	11.5%	100%	武道	66.1%	19.3%	14.7%	100%
ダンス	8.4%	16.1%	75.5%	100%	ダンス	11.3%	18.8%	70.0%	100%

注) 太字はそれぞれの最大値である。

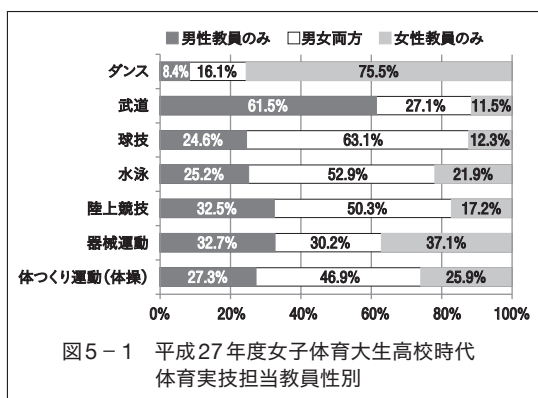


図5-1 平成27年度女子体育大生高校時代体育実技担当教員性別

ダンスと武道に従来からあった格差が残っている。ダンスの授業は女子体育大生の75.5%、一般女子大生では70.0%が女性教員の指導を受け、突出して女性教員の担当であり、「ダンスは女性教員の手で」の状況は変わっていない。逆に武道は女子体育大生の61.5%、一般女子大生では66.1%が男性教員の指導を受けていた。しかし、ダンスでは男女両方と男性教員のみを合わせて女子体育大生の24.5%、一般女子大生の30.1%は男性教員に授業を受けている。武道では、男女両方と女性教員を合わせて女子体育大生の38.6%、一般女子大生では34.0%は女性教員に授業を受けていることから少しずつジェンダーイコリティに向かっていると言えよう。

まとめ

本稿では、高等学校保健体育科におけるジェンダーイコリティの実現状況を2015(平成27)年度女子体育大生への調査と2016(平成28)年度一般女子大生への調査を比較しながら検討してきた。その結果次のことが明らかとなった。

女子体育大生調査では20.3%、一般女子大生調査では17.2%の出身共学高校で男女共修保健体育授業を実施していない。男女共修保健体育授業を実施していない高校はこの10年間でおよそ半数に減少した。しかし、男女共修体育は「全部共修」ではなく、「一部共修」の形を取るにより実施されている。特にダンスは男子生徒が履修していないためと思われる。

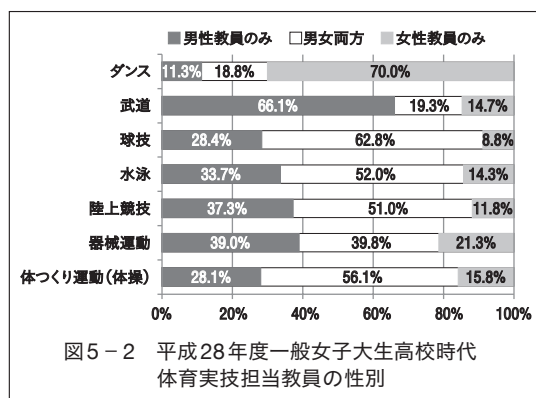


図5-2 平成28年度一般女子大生高校時代体育実技担当教員の性別

一部共修率が低い³⁾、2015(平成27)年度女子体育大生では、10.3%であった³⁾、2016(平成28)年度一般女子大生調査では16.3%となり共修が進んでいる。

男女共修授業に対して、女子体育大生は肯定的意見が否定的意見の二倍の数であったが、一般女子大生では、肯定的意見と否定的意見がほぼ同数であった。男女共修授業は女子体育大生つまり、体育の得意な生徒の方が肯定的であることが明らかとなった。男子教員数の方が多いことから、男女共修授業は男性教員のみによる高校が多く残されている。

保健体育科女性教員数は1校1人が最多で、女子体育大生で31.9%(115人)、一般女子大生で31.3%(127人)を占め、女子体育大生で5.8%(21人)、一般女子大生で11.0%(45人)が女性教員は皆無であったと答えた。それに対して男性教員は1校4人が最多で男女で全く異なる分布を示している。

女子体育大生、一般女子大生ともに女子高校の保健体育科男女教員の分布は男女同様の分布となっている。一方、共学高校では、女性教員は1校1人が最多、男性は1校4人が最多で全く異なる分布を見せている。

出身高校保健体育科男女教員配置組み合わせは、女子体育大生では最多は男性教員5人と女性教員1人、男性教員4人と女性教員2人の組み合わせである。一般女子大生では男性教員4人と女性教員1人の組み合わせであった。女子高校では共学高校より、女性教員が多く配置されている。しかし、女性教員皆無

の女子高校がそれぞれ1校あった。

半数以上が男女両方の教員に担当されていたのは、女子体育大生も一般女子大生も球技のみであった。男性教員のための担当が多いのは武道（女子体育大生では履修者の61.5%，一般女子大生では66.1%）のみで、女性教員の担当が多いのはダンス（女子体育大生では履修者の75.5%，一般女子大生では70.0%）のみであった。「ダンスは女性教員の手で」の状況は変わっていない。

これらの結果から、高等学校保健体育科ではダンスの男女共修授業が進んではいないが、ジェンダーイコリティは達成されていないことが明らかとなった。

昨年度女子体育大生に対する調査で、体育大学入学に最も影響を及ぼしたのは「女性体育教員」（176人：47.8%）であった。女性体育教員数は、一般女子大学生の出身高校より女子体育大生の出身高校の方が多かった。女性体育教員が在籍していたことが生徒にとってロールモデルとなったことが確認できた。

文献

- 長谷川千里・及川佑介（2016）高等学校における体育実技授業や課外活動等の実態調査。東京女子体育大学女子体育研究所所報，10：21-30。
- 掛水通子（2006）男女共修体育からみた男女平等体育の実現状況—男女共修体育の用語の動向と高等学校への一調査から—。スポーツとジェンダー研究，4：30-39。
- 掛水通子ほか（2016）本学新入生の高校時代における保健体育授業や部活動等の実態調査概要。東京女子体育大学女子体育研究所所報，10：3-12。
- 掛水通子（2016）高等学校保健体育科におけるジェンダーイコリティ実現状況：本学新入生への調査から。東京女子体育大学女子体育研究所所報，10：13-20。
- 小野田桂子・八尾泰寛（2016）高校時代の保健体育授業や課外活動等の実態調査：部活動やクラブチームの活動についての一考察。東京女子体育大学女子体育研究所所報，10：45-48。
- 大石千歳・笹生心太（2016）高校運動部での体罰経

験の解釈と体罰再生産メカニズムの関連性の検討：認知的不協和理論による体罰の正当化および集団凝集性の観点からの体罰のチームワーク強化機能について。東京女子体育大学女子体育研究所所報，10：49-57。

笹生心太・中村平（2016）高等学校における体育理論授業の実態に関する研究。東京女子体育大学女子体育研究所所報，10：31-35。

戸田芳雄・鶴澤文子（2016）本学新入生の高校時代における科目保健授業に関する調査研究。東京女子体育大学女子体育研究所所報，10：37-43。